

主題	施設環境整備がもたらす効果
副題	5Sの実践で見えてくるもの

環境作り	気付き
------	-----

研究期間	24ヶ月	事業所	ケアハウス アゼリーアネックス
------	------	-----	-----------------

発表者：松崎 陽子（まつざき ようこ）	アドバイザー：濱野 誠（はまの まこと）
---------------------	----------------------

共同研究者：

電 話	03-5607-6550	メール	makoto@azalee.or.jp
FAX	03-5607-3870	URL	http://koujukai.azalee.or.jp/

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	社会福祉法人江寿会が運営しているアゼリーアネックスは、江戸川区にあるケアハウス・デイサービスです。利用者第一主義、地域社会への貢献、仕事を通しての自己実現という3つの経営理念を根幹に、利用者様が笑顔で快適に過ごせるようなサービス提供を目指しています。
------------------------------	---

《1. 研究前の状況と課題》

私たちアゼリーアネックスの目指す職場として5つのSが掲げられている。整理・整頓・清掃・清潔・躰の5つである。グループの中には幼稚園・保育園・リハビリ専門学校があり、各々で5Sを実践し、利用者（顧客）の安全と満足度アップ、職場の雰囲気や仕事の効率のアップが図れるなど、すでに効果が現れていた。しかし、当施設は当初5Sへの意識が低いところか、5Sの意味や言葉も知らないスタッフがほとんどであった。例えば、 unnecessaryなものが散乱して、どこに何があるかわからない、使った物を元の場所に戻さないため、探すまでに時間がかかる、衣類をたたまずそのままタンスへ入れる、汚れに気付いても拭かないなど誰かがやるだろうという気持ちからこのような状況が当たり前のようであった。そこで、5Sの実践によってどのような効果が現れるのか、また、きれいで働きやすい職場にしたいという思いから、実際に取り組むことにした。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

- 利用者（顧客）の安全
- 施設内の清潔保持
- 5S意識の浸透
- 仕事効率の向上
- スタッフ同士の協力
- 職場環境の整備

《3. 具体的な取り組みの内容》

・5S自体を知らないスタッフ、または言葉を知っていても内容までは理解していないスタッフが多い、意識が低い。

→5Sのモデル行動を具体的にあげる。

→朝礼で5Sの意味、具体例を記載した理念ブックの毎日読み合わせを行う。

・実践する

→1か月に1回期限を決めて実施し、発表の場を設ける。

→写真、文章を組み合わせて、皆がわかりやすく、元の状態がわかるように見える化する。

→5Sを行う場所を決め、チーム分けする。

→振り返れるようにファイルにまとめる。

《4. 取り組みの結果と考察》

具体的な行動、モデル行動を誰でもわかりやすくしたこと、反復して声に出し読み合わせしていくことで、スタッフへの5Sの刷り込みができた。

チーム分けをし、5Sに取り組むことで各々に責任感が生まれ、整った状態の維持もできる。また、期限があることにより、月1回は必ず行える。

5Sの目的があることで、スタッフが協力し合え、実践していくうちに良いアイデアが生まれる。

定置化することで、探す無駄な時間が省け、見える化することで元の状態に誰もが戻せ、仕事の効率が上がり、利用者様へ対する時間が設けられる。

利用者様が見て楽しめるように、ご家族からみて清潔感、明るさなどが感じられるようにと考えるスタッフが増えてきた。

自身が5Sに参加していることにより、きれいな状態を保とうという意識が向上した。

《5. まとめ、結論》

実践を通し、5Sとはただ施設をきれいな状態にするというだけではなく、スタッフ間の協力体制の確立や、各々の責任感を育てること、新しいアイデアを生むきっかけにもなるいことを実感した。また、5Sの徹底によって、無駄な時間が省けることは全て利用者様のために繋がることがわかった。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《8. 提案と発信》

一言で5Sと言ってもそこには職員のモチベーションや仕事の質の向上にまで影響を及ぼしている。利用者様のために何かしたい、それぞれのスタッフが施設を良くしたいと思う気持ちが大切のように思う。誰かではなく、私がという気持ちで5Sの継続、発展を行っていききたい。

【メモ欄】